

令和7年度淀川水防・大阪府地域防災総合演習 参加報告

令和7年5月26日 技術委員 塩崎

- 日時 ・ 令和7年5月24日(土) 9時~13時
- 場所 ・ 大阪市旭区太子橋1丁目地先 淀川左岸河川敷(13.6km付近 豊里大橋下流)
- 内容 ・ 防災総合演習参加
 - ・ 体験・展示コーナー出展
 - 液状化実験装置による現象観察
 - 補強土工実験装置によるゲーム的体験(参加景品として駄菓子配布)
 - 協会誌(GEO)、冊子および三色ペン(協会ネーム入り)の配布
- 参加者 小宮理事長・大久保防災委員長・岩瀬技術委員長・甲斐技術副委員長
技術委員・協会大阪支部・関西地盤環境研究センター各2名
以上、計10名

当演習は、国土交通省、大阪府、大阪市の主催のもと参加機関48団体のほか、大阪府下市町村職員からも参加集合し、水防月間の中核行事として開催されました。

今年度の演習テーマは、

「水防で地域をまもる 次世代へつなげる技術と教訓
~つたえていこう 水害の経験を~」

を目的として、6年ぶりの開催地となる淀川左岸において、大阪湾を直撃する巨大台風の襲来を想定して実践的な演習が行われました。

(一社)関西地質調査業協会は、COVIL3協定メンバー(建設コンサルタンツ協会近畿支部、大阪府測量設計業協会、滋賀県測量設計技術協会による大規模災害時の業務提携)として、協会幹部メンバーが演習に参加しました。

また、我々の協会活動としては、体験・展示コーナーにおいて各種実験機による観察・ゲーム体験や協会冊子の配布を行い、協会活動、地質調査業務についてのPRを行いました。

展示内容では、液状化現象が発生する不思議を観察してもらい、さらに、補強土工ではカラフルかつシンプルな実験ゲームで、市中で目する直立した補強土壁のしくみを体験して頂きました。当日は雨天の中の開催となったこともあり、地域住民の一般見学がやや少ないながらも、演習に参加された各関係機関の方々は、若い世代の職員も多く、全体では約100名程度に見学体験をしてもらうことができました。特に、液状化実験では、見慣れない現象を観察できるため大人や参加関係者の興味を持っていただくことができ、補強土工の実験機は、景品付きもありお子様に大人気で、縁日の屋台状態でした。

今後の課題としては、地質調査の魅力を広く広報できる参加方法も検討することも必要と考えています。



開催地状況（準備段階）



協会メンバー集合



演習開会（吉村大阪府知事 開会あいさつ）



体験・展示コーナー



液状化実験装置の実験中



補強土工実験機にてゲーム中